

おんじゅく

The Onjuku Koho

70-4

昭和45年

第84号

千葉県御宿町役場発行



2・7の日につつ朝市(いち)にも、果物が目立って多くなってきた。



あれからもうひと月



お勉強にもなれて元気にお答えできます



健康診断も定期的に



学用品も自分でよく確かめて



初登校はうれしきでいっぱい



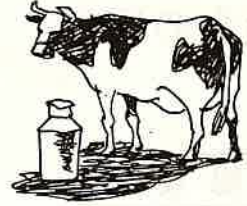
下校は歩道橋を渡って集団で

保育園を終えて、期待と不安を持って新しく小学校へ入ったよい子たちの一日をカメラで追ってみました。



テレビをみるのも大事な日課

今月の焦点



つまづいた草地事業

望まれる財産処分の方

米作一辺倒

の農業から早く脱皮しようと、日ごろから酪農の研究をかさねてきた町内七つの畜産業者があります。彼らは、これから酪農を維持してゆくためには土地が狭く飼料も高いので、山林を開拓して、草地をつくらうという結論に達しました。そこで七本にある私有地約四・三ヘクター

ルを買い上げましたが、国の補助金対象が十ヘクターだったため町に交渉し、隣接の町有地七ヘクターを立ち木とも、十アール四万円で購入してもらいました。「草地造成事業」として、県に申請し、千三百六十九万円の国および県の補助金をうけました。一方町では、投機的売買を押えるために町有地の払い下げ後は、十年間転売できない条件をつけているし、国の補助を受けた場合、六年間草地造成の目的以外に土地を転売してはならないことになっています。ところが九月ごろからうわさが立ち、町議会では対策委員会をつくり、いろいろ調べたところ、五・七ヘクターの土地（町有地払い下げ分）はさる六月十日に県内の観光業者に売られていました。また四十二年春に東京の観光業者に売られていた、約六・三

ヘクターのうち、二ヘクター（町有地）と四・三ヘクター（私有地分）は県当局と折衝の結果馬の沢団地分、千百一十七千円にかかる補助金の返還命令にしが返りました。残りの九・七ヘクターについては、事業を継続するため返還対象とならないということです。

いま町では、南総観光開発KK（旭市）に渡った土地（農地）を知事の許可を得ずに転売したため、土地返還の訴訟（仮処分）を起しています。この訴訟が解決されれば、六人の業者（ひとり土地を買っていない）に土地がもどるといふ見通しが立つというので、町ではこの時点で六人に對して町有地売買契約違反の決着をつけるという。すでに三・四回にわたり仮処分（土地に構築物などを設置させない）のための裁判をしています。

県当局では、売買された土地はあくまで農地であるので、知事の許可が必要という。つまり農地法違反の勧告をしたため、南総開発でもほぼ了承し、売買の取り消しをする気運にあるという。六人の業者がそれを買い戻せば、町はあらためて、売買契約違反の手続き

をとるといわれています。いづれにしても、町民のみなさんを大へんさわがせた事件もようやく結着への手がかりを見出せたようです。しかし一方では、町民の関心事である、この事件に関係した一部職員の問題をうんぬんする向きもあります。これは町民の代表である、町議会と町当局との十分な話し合いによって結論をだしていただくことが町民への最もよい釈明と思います。

とにかく土地処分問題については、慎重の上にも慎重をとというのが町民のいつわりのない気持でしょう。

草地問題も事件の発端から三年も経過している。この種の事件は徹底的に調査し、原因を究明し、町民に公表すべきであろう。やはりタイミングが大切で、間髪を入れずに適切な処置をすべきではなかったか。長びくと余計なうわさもよう。いづれにしても、一町民として、みんなの財産はしっかり管理してほしい気持だ。（M生）

町はじまつて以来の大型予算が三月十三日の町議会で決まりました。

この予算では、民生と観光に大きな額が盛り込まれていますが、みなさん自身の予算でもありますので、よく目を通してください。歳出予算については、各課でどんな予算をもつて仕事をしているか、課の仕事の概要と予算との関係を中心に説明をころみました。(予算額は昨年より三千七百七十万円の増)

町と所の台の議の運

総務課

総務費 総務管理費が三千四百八十万円。この内容は一般管理費、つまり特別職(町三役)や職員給料、宿日直(平日五百十円)手当、扶養手当、旅費や町長交際費(九十万円)、庁舎修繕費電話料(八十五万円)、庁用器具としての修品購入費などが主で二千三

百三十四万円。各部落の区長(月額七千円)や代理、連絡員などの報酬や補助金も、また交通安全協会、各部落の事務費(二十万円)なども交付されます。

選挙も総務課の仕事ですが、選挙管理委員会費や選挙啓発費で十六万円。国勢調査費をはじめ、農

観光、住民福祉に重点

新年度予算 2億6,580万円



林統計など各種統計調査費は調査員の報酬が主で七十二万円。次いで監査委員費。

消防費 非常備消防費として、団長はじめ各分団員の手当が二百十六万円。退職者報償や公務災害基金としての負担金五十八万円など。他に施設費が二百三十三万円。貯水工事費として、二百万円が計上されています。さらに総務課で扱う事務として、公債費があります。

出生から死亡まで

保育所・ゴミ焼却場建築

住民課

地味ながら非常に守備範囲の広いところで。

民生費 民生費のうち社会福祉費として、五百五十九万円。このうち民生委員、母子推進委員の報酬や青少年相談員、家庭奉仕員の報償費、特殊寝台、町社会福祉協

児童措置費つまり保育材料や給食材料、備品費などが四百四十万円。保育所政策が二千五百七十五万円。民生費総額は五千三十一万(昨年より三千五十一万円の増)

住民の健康管

理に重点置く

議会への補助が百十万円。老人クラブ、身障者、遺族会、心配ごと相談などへ助成の手がさしのべられます。次に児童福祉費は、保育所関係の予算です(保育費は実際は保育所で事務が行なわれます)所長や保母の給料や旅費など一般的な管理費で千四百五十六万円。

衛生費 保健衛生費のうち、予防費や環境衛生費が二百八十七万円。がんや住民検診、老人検診と健康管理に、また住みよい環境づくりに害虫く除は、薬品代として二十一万円が見込まれています。

す。これは今までに借り入れた金の元利、償還金で千五百万円をこえています。この他に議会費として、六百三十万円(議員歳費が主なもの)なども含まれます。以上の財源内訳は一般財源五千八百八十二万円。国県補助金七十五万円。その他百九十八万円。なお有線事務も総務課で扱いますが特別会計のため略します

ゴミやし尿の処理費として、八百十三万円、じん芥処理場の土地造成は昨年行なわれ、本年は、処理場の本体工事など千三百三十万円が計上されました。衛生費総額二千三百五十二万円。

農業と漁業の振興助成

戸籍住民登録費は、総務費に組まれていますが、住民課の仕事で予算額九十八万円。以上の財源内訳は一般財源三千四万円。国県補助金三千五十五万円。その他二千三百二十二万円。起債八百万円。

農林水産課

町の基幹産業である、農・漁業の振興を図ります。先の機構改革で土木、建設関係と分離したために予算も八百七十七万円となつてい

ます。農業委員会の事務をはじめ農・漁業団体への助成金（百九十九万円）や近代化の利子補給、家畜伝染病予防などの事務を行ないま

す。財源内訳、一般財源六百六十六万円。国県補助金五十一万円。その他百一十万円。

道路の改良や財産管理

いままでの企画課と産業課の土木関係がおもに併合され、新たに企画建設課として発足しました。

立山農道整備の工事請負費が千二百五十一万円。土木費として、道路維持費が二百七十万円（原材料が二百五十万円、運搬代二十万円）道路新設改良は千八百二十七万円となつています。内訳は、新町住宅、登記所道路、実谷新久井線などが改良舗装されます。また西林寺や部田前、岩和田仲宿が改良されます。さらに六軒町の排水工

理費は、町営住宅の修理や自動車保険などで三十万円。企画費としては、百十五万円でこの中には、浜本場の土地造成六十万円が計上されています。道路関係では小幡

や仲宿、六軒町の側溝も整備されます。住宅道路の補修など住宅費

プールの建設と広報の発行

商工観光課

県を代表する観光地として、成長を続けてきた観光も、町にとって最大の産業としての地位を固め

が二十四万円となつています。

財源内訳は一般財源千九百四十一万円。国県補助金千八十六万円。その他千六百七十一万円。

徴税、納税組 合の育成強化

税務課

歳入総額の二割を占める町税の賦課、徴収を主に、納税組合の育成など賦課徴収費として、百五十九万円。税務課としての予算は七百万円。科目は総務費の中に組み込まれています。

財源内訳は一般財源六百二十七万円。国県補助金七十一万円。

つつあります。本年度予算も三番目に多い額となりました。観光費三千五百七十四万円（昨年より二千八百万円増）プール建設および設計料二百万円。ポスターなど宣伝媒体が百万円。記念碑道路や駐車場整備、海岸聖火台などの工事請負費が千百十万円。放送施設二十万円や観光協会への補助金二百二十万円、商工振興費として商工会への補助が六十三万円、さらに総務費に予算が計上されてい

る広報印刷費八十四万円など、文書広報費として百万円。このように商工観光課の受け持つ予算は、三千九百七十七万円、予算総額に占める割合は十四・九％となります。宣伝、受入れ体制の強化に加え、いよいよ観光基本計画に基づく施設づくりへと大きく歩みはじめました。財源内訳は一般財源七百二十七万円。国県補助金二百五十万円。その他千五百万円。

教育委員会

社会教育に重点

教育行政に対する町の伝統的な力の入れ方がみられ、その環境はすばらしいものとなりました。毎年度予算額のトップに位置していた教育費も本年度は二千六百九十一万円（昨年より二千五百八十三万円の減）と施設の整備もほぼ整い、予算は大幅に減少しています。予算全体に占める割合も一割となつています。委員会は教育総務費のうち、委員会費の十二万円と事務局費の三百九十万円。それに社会教育としての公民館活動費五十万円など。他に管内小中学校や布施教育組合などの学校管理や教

育振興、婦人、家庭学級、文化祭体育大会など、社会教育の重要性がさげばれています。委員会、事務局、社会教育費が五百四十万円。その他教育費二千五百五十万円（これらは各学校で予算をもつことになっていきます）財源内訳は、一般財源二千五百五十四万円。国県補助金七十五万円。その他九万円。以上のほかに予備費六十万円となつています。労働費は、失対事業の廃止、また諸支出金費は、土地取得がなくなり、本年度は予算に盛り込まれていません。

きびしい財政の運営

歳入 税金も起債もふえる

歳入総額は、二億六千五百八十一万五千円という大きな額となりました。歳入科目としては、町税から町債(グラフ参照)の十三科目、このうち予算全体に占める割合は地方交付税三十二・六パーセント、ついで町税の二十一・四パーセント、財産収入の十八・四パーセントが上位を占めています。特定財源(国県の補助金や起債など)が四十一・八パーセント、一般財源(町税、交付税など)が五十八・一パーセントでまだまだ国・県に依存する苦しいところ具合です。各科目ごとに主なものを説明しますと、町税が五千三百五十九万円(昨年より千七百七十七円増)のうち個人町民税が千二百七十七万円、法人の町民税が百四十万円、固定資産税二千八百八十八万円(うち国鉄や電々公社からの納付金などが二百五十万円)たばこ消費税千二百六十五万円(昨年より三百万円の増)その他新しいところでは入湯税が七万円見込まれています

自動車取得税が三百二十万円(百二十万円の増)、地方交付税は八千六百七十七万円(昨年より二百十三万円の増)と大幅に増加しています。分担金及負担金は、保育料として、三百五十六万円が入園児の家庭から負担されます。使用料手数料は、町営住宅使用料などが二百十六万円。ゴミ処理手数料六十二万円など。

国からの負担金は、保育所関係が七百九十八万円。補助金は、小幡農道が五百七十一万円、その他新久井小山線の農道災害復旧の補助金や保育所建築分が百五十万円などとなっています。

県支出金は、やはり小幡農道、西林寺線といった道路関係のものが主ですが、民生衛生の各グループへの補助や、結核やガン検にも補助がつかます。また記念碑道路として、二百五十万円の補助もつきます。

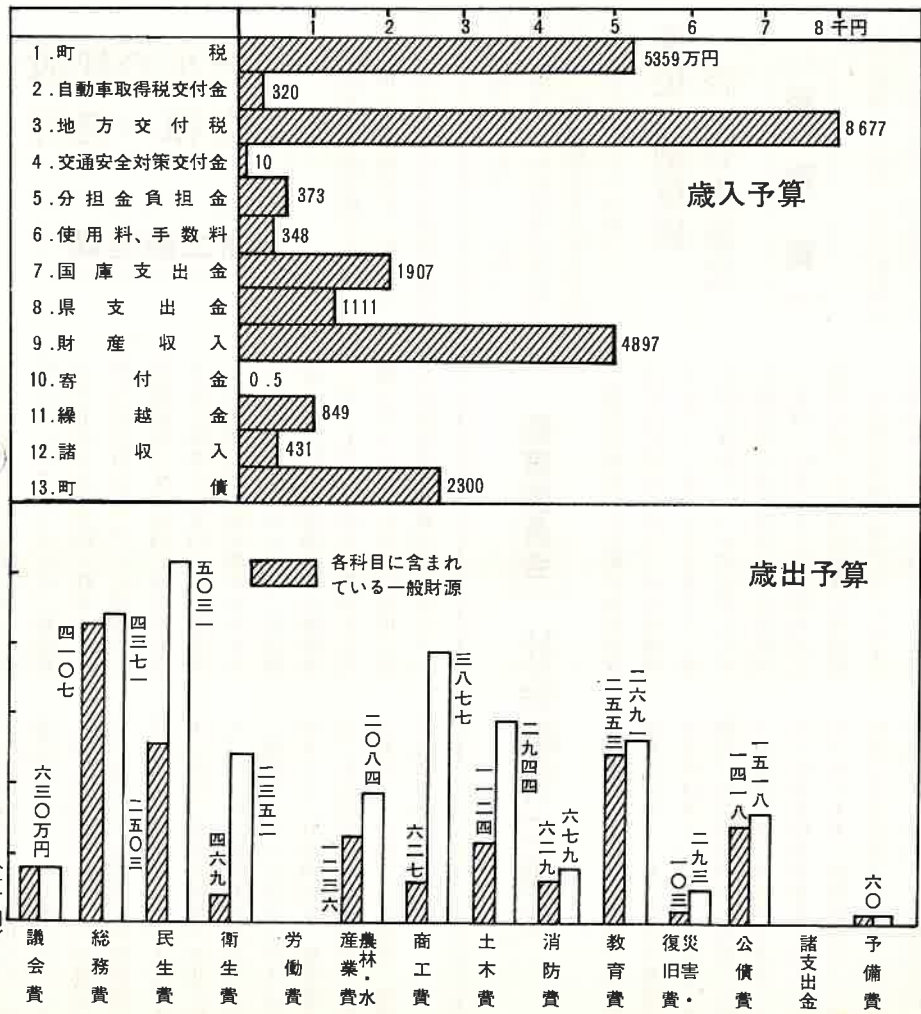
財産収入、町有地の処分が千五百万円。天の守造成が三千万円。

須賀住宅地二百三十万円などを含めて、四千八百九十七万円となっています(昨年より六百六十六万円の増)

前年度繰越金八百四十九万円。諸収入は、預金利子などで四百三十一万円。

町債は、観光プールが千五百万円、保育所が八百万円計二千三百万円となっています。そこでこの歳入面で目につくことは、交付税について町税が二番目に多い

数字になって、自己財源がふえている反面、財産処分や町債(借金)も増えていますので、財政の運営を慎重にまわがいのないよう心がけなければなりません。



高梨、井上、岩崎議員が一般質問



三月十三日開かれました町議会
で次のような一般質問がありました。

高梨秀治議員

須賀町営住宅を払い下げるにあたり、道路を補修するということがどうなっているのか。
池田企画課長 四十四年度中になおすことになっております。

観光公害に対する考え方

観光の発展はめざましいが、一方では、観光による公害が発生しているが、それらに対する考えを

井上浩一議員

伺いたい。また農村地帯の開発にも力を入れてもらいたい。その辺の考えをおきかせ願いたい。

滝口観光課長 観光の発展にともない多少なりとも公害と言えものが発生してはいますが恐れることではないと思います。なぜならここでいう公害とは発展への過渡期に生じるアンバランスだからであり、克服できることだからであります。現在観光公害として考えられることは、夏の物価高と、青少年の非行化、ゴミ、し尿処理の三つが考えられます。まず第一の物価の問題は消費者モニター制度をつくって、夏の物価の安定ということを研究していますが、現在、生鮮食料品の値上りが御宿だけが

決して高いのではないという結論に達しています。

青少年の問題は、教育委員会、住民課、各部落で、その育成を真剣に考えてくれています。また町の姿勢としては、例えばキャンプ禁止などの行政処置をとつていい結果を得ています。また観光があるから青少年が非行化に走るといふことは一概にいえないと思いません。かえつて一流観光地といわれるところは、いろいろなひとたちが入ってくる中でもまれて、非常にうまくしい人間に育つていく環境をつくつています。

ゴミの問題にしても観光地をきれいにしよう、あらゆる会合を通じて一般に呼びかけています。

起債についての考え方は

岩崎栄一郎議員

まり好ましくないが、国の方針で公共福祉のためなら起債をしてもさしつかえないということです。

道路の年次計画は

岩崎議員 道路工事はどこをやっているのか。また道路整備は年次計画を立てるべきではないか。
産業課長 現在、岩和田記念碑

また町も夏のピークに合わせて、ゴミ処理場の建設を進めています。観光は発展させなくてはなりません。そして発展の過程で生ずる、これらの問題とも積極的に取りこんで参りたいと思います。

吉野産業課長 農政問題は、町だけでは解決できないと思えます。米作もあのとおりだし、流通機構などにより、農民の勤労意欲がな

岩井町長 産業の振興については住民全部が利益を受けられるんだということは無理です。できるかぎり多くの者が恩恵に浴するといふものだけに目標をおいています。また農村地帯には工場誘致をしていきたいと思えます。

道路、部田前通り、実谷中央線などをやっています。四十五年度は春日様のところなどをです。

岩崎議員 岩和田小は一学級の生徒数が二十名くらいで、教育効果はあがると思うが、教材の点でおとると思われがどうか。

佐藤教育長 教育的には、人員が少ない方が効果があるもので、教育委員会としては近い将来御宿と統合しようとの意見に達しました。



② ①



③

② ①
NHKのど自慢

歌は世につれ、世は歌につれ、文字通り世相を歌いつづけて二十四年間。こののど自慢も四月から新しいころみとして、「のど」を競う方から、さらに一歩進んで楽しさを盛り込もうと、ゲスト歌手をまじえて歌合戦。

去る三月十二日新装なった御宿小体育館に千人をこえる観衆をあつめて行なわれました。応募者の方も二百七十名近くと、かつてなかったほどの人気。いい席をとろうと朝五時ごろからグラウンドに陣取ったおとしよりもあつたとか。

写真11月の沙漠を合唱する出演者ゲスト地元のよい子たち

③ 楽しかった

保育生活に別れ

三月二十五日第一保育園で卒園式が行なわれました。ことしの卒園児は、九十九名です。保母さんから手渡された園での生活記録(絵や折り紙の作品)や卒園証書、学用品をみせあいながら、保母さんとの別れを惜しまました。

写真11卒園証書や学用品みせあう卒園児 第一保育所卒園式で

④ 生活者大会で

奥さんたちの発表会



④



⑤



私たちの生活が、より安全でより豊かなものであるようにと、主婦たちの生活体験や、物価問題の熱心な発表が行なわれました。三月三十日、塚本ビルで開かれた第十四回千葉県生活者大会が「視光地における野菜づくり」というテーマで、視光による急激な野菜などの需要に対処し、地域婦人会として、品不足による生鮮食料品の値上りを少しでも防ごうと、野菜づくりの体験発表が大好評でした。

写真Ⅱ野菜づくりに精出しますと意見発表

⑤ 青年植樹祭

青年のように健やかに伸び、美しい花を結べと、ねがいをこめて青年の日の三月十五日に浅間山で植樹祭が行なわれました。

この日集まったのは、岩和田、久保両区の子どもの会の子や、青少年相談員、役場職員など。県や夷隅支庁から関係職員も参加し、町長のあいさつ、主催者側の支所のあいさつのもと、あじさい、つばきが百本ほど植えられました。

この浅間山をあじさいの名所にして、視光客や地元民の花壇にしようとして、はりきっています。

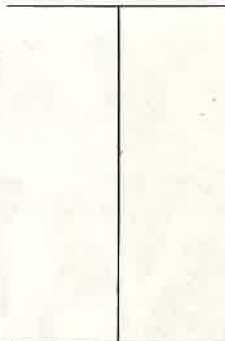
写真Ⅱ早く美しい花が咲くようにとアジサイを植える

総知集め品ある観光地づくり

—考えたい過剰投資—



金井観光協会長



村田ゆうもあくらぶ会長



金井

観光のすばらしい発展は、町の

せになる産業としての地歩を固めつつあります。このように観光が発展してきた陰には、町民が一丸となって、観光でいきようとす

る情熱の現われだと思えます。

しかしながら、発展の過渡期には

いろいろな問題が起こります。観光ムードによって、過剰投資をしていないか。お客さんを迎える心構はどうか。観光本来の在り方についての考え方はできているのだろうか。これからさらに高尚な観光地として、発展していく

ために、この辺でじっくりと考え直してみてもむだではないでしょう。そこで第一回のトップと語るは、金井観光協会長と村田幸さんに対談していただきました。

村田 観光はこの五、六年伸びましたねえ。

金井 その大きな理由は、地形的理由でしょうね。三面を山に囲

まれた盆地の中に町の大半のひと

たちが住んでいる。そうすると、すべてのひとが観光に参加できる形があります。これが大きな自治体だったりするといろいろな反対があつて、町ぐるみという体制は

できなかったと思えます。

村田 五、六年前の観光協会の数字の発表では、二十五、六万だったですね。昨年が百五万、本県ではとびぬけていますね。道路がよくなった、急行が増発されたこと、その間の当町の企画が適確だったと思えます。

金井 観光統計というのは、まゆつばなのが多いのですけれどもね。当町の場合経済サイクルが、四・五倍になっていますから、裏付けがあります。

村田 最近ホテルができる、それにつれて、民宿が非常によくなつてきて、軒なみに競争しあつて

をやるように奨励したんですが、

それが現在、関東では最高の数になりました。民宿はあらゆる職業に金が循環してゆくという点で町ぐるみの観光ということに直ちに結びつきます。

村田 久保あたりの農家で二、三年前から、民宿を非常に力を入れていきますね。昔の草屋根の大きな家に三十も五十も畳数があるから入るわけです。ところが最近家を作りはじめた、農閑期を利用して出稼にいくよりましですからね。

金井 最近みられる傾向は、大きな家があるから、農閑期に民宿でかせぐ、あいている部屋があるからお客さんをいれる、本来の発

生の民宿スタイルから、今は民宿でいっちょ商売しようというつもり、大きな金を借りて作るケースが非常に多いんですね。そこでひとつ問題もあるようですが。

という少々うわついた考え方も

てきているんじゃないでしょうか。まだまだ当町の段階というのは、観光地といつても夏がほとんどですね。二カ月の商売で、一年中楽に食えるということはありません。

金井 観光が進んでくるといろいろ心配なことがでてきます。まず青少年が派手なかつこうに刺激されて不良化するという問題があるけれども、これは私は心配しないんです。というのは、だれしも一生温室の中で育っていくわけには

いけないので、どっちもち東京にいれば新宿にも池袋にも渋谷にもいくと思うんです。それでいちいち毒されていたんではしょうがないんで、かえって免疫がついてい

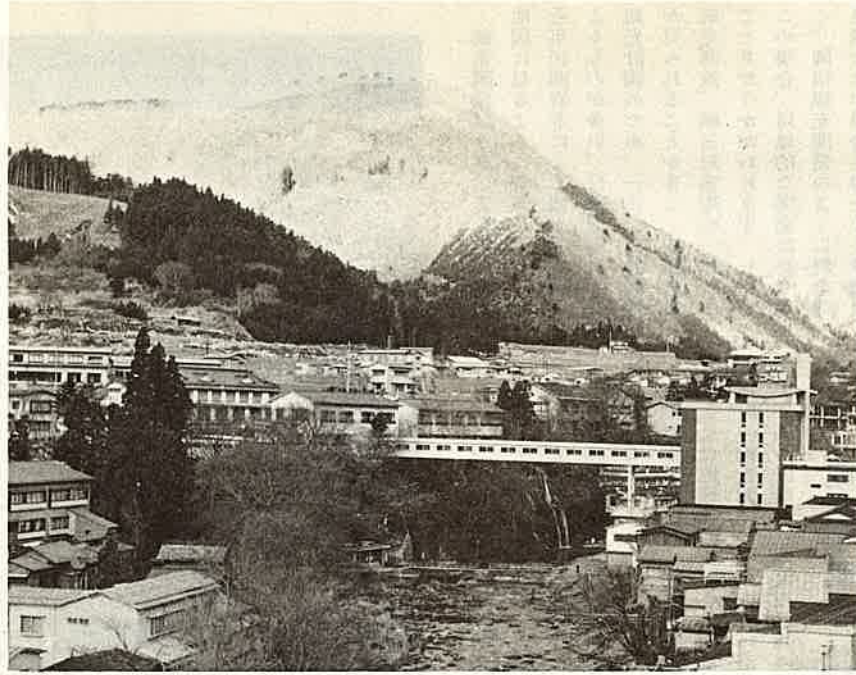
いんじゃないかと思う。
村田 俗悪な観光地と御宿も同じじゃないかといわれては失敗になるんですね。どういうふうにひ

の責任ですからね。あまりびつくりする必要はないと思うんです。

どもどうしてつくらないんだとい

村田 御宿は夏は海水浴で最高

金井 旅館業者の間でストリッ



似しようというけれども、そこが

金井 品をよくするともうから

村田 いや今に品がよくてもせ

村田 これからは大衆レジャー

金井 最近総体的に大きな団体

村田 観光地になっていくと思いますね

金井 全国的に減っています。です

村田 今の海水浴の状態のよう

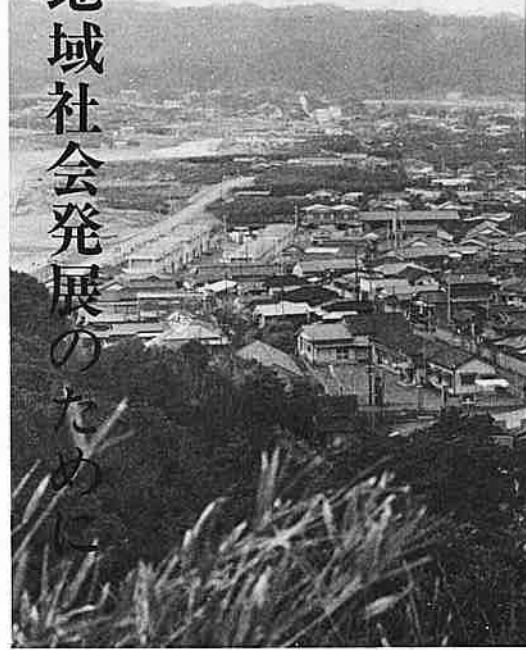
金井 その通りです。御宿は三

なので、いくら一度にお客さんが

きても売り上げはふえないんです

金井 受け入れ側の姿勢の問題、

地域社会発展のため



案する。
主力になるものは、最も時間的余裕がある若年層であろうが、他の年代層にも充分用意される。大学の文化系の諸サークル、体育系の部やサークルが、セミナーや合

宿を行なう。また母と子の林間学校や企業の研修会、宗教団体の修養会を行ってもよい。趣味の会、同好会、クラブ等が集中的に成果をあげる場に用いてもよい。

二、住民参加と住民利益

多くの観光地では、外来資本が地元住民を無視した開発を行なっている。地元の観光資源によって得た利益は多くの場合地元へ還元されず、地域開発の本来の目的が失われている。美しい町並、豊かな自然を破壊する商業主義の開発は地元へ利益をもたらさなければならぬ。環境の俗悪化を招く。

御宿では、町の家並み、漁港、

海岸の砂浜と砂防林、町をとりまく緑の丘陵といったものが観光資源なのであり、町の生活そのもの、海女の作業風景等が観光資源なのである。美しい町づくり、たくましい生活建設が長い目でみた観光の町づくりになることを忘れてはいけない。ネオンや看板による目先きだけの開発はさげたいものである。

三、観光演出

観光には、見せる観光、見る観光が多くまた現在でもそれが開発の目的とされていることが多い。

しかし日常生活の場からはなれて、観光の中心となるべく物理的実体を中心とする豊かな人間像が浮き彫りされる場、そのようなイベントの存在する場こそが構想されるべきで、そのための演出装置が用意されることによって、観光効果が地域の一であり、来訪者のも

のとなり、人間的共感の中に健康な明るい観光地となる。

一口でいうと御宿の新しい全体像を作ることである。カーニバルや新しい祭を開催したり、そのために演出効果のある空間（たとえば広場）を作り、いくつかの見せ場をつくることを提案する。

いる。従って観光開発が地域開発

と平行して行なわれる場合、長期計画の確立と基本方針の明確化によって計画の実現化が図られなければならない。

長期計画の骨子は、住民利益を基盤とした地域整備が中心となる。御宿町の観光開発はその方針に沿って計画の原則として次の三つの

一、健康で明るい観光地

今後、余暇が増大し、所得が向上すれば、余暇の過ごし方は多様化し新しいタイプの観光が現われることが望まれる。人間回復の場という新しい観光を探し求めている。そのような潜在的な欲求に答えるのが真の観光地づくりといえるように。

項目をテーマとした。

一、健康で明るい観光地 とくに健康で明るい若者に焦点を絞る。

二、住民参加と住民利益 住民の愛郷心による町づくりは観光の町づくり。

三、観光演出 中心となる空間の演出とフェスティバルの盛り上げ。

御宿においては、自然にとりかこまれた環境の中で、今までは海水浴という自然利用の一シーズン型の観光地であったが、ゆっくと滞在しそこである共通の目的をもった人々が、相互理解と自己開発を行ない得るような場、セミハウス等を建設することをここに提

観光開発はさきに千葉県の観光地図に見るように資源に乏しく、近年民間資本による観光計画地によるものが多い。民間資本による観光計画のため、一貫した計画性が見られることが多く、観光効果が観光誘致、輸送対策等の一連のみごとさがうかがわれます。しかしこの場合、局地的な開発に終り易く、御宿観光開発のように町全体地域全体の場合とのかなり様相が異なる。

地域観光の場合、公共投資の速度は緩慢であり、従って施設計画が実体遅れて行なわれていることが多い。その結果、用地確保に時機を失い計画の基本方針のなしくづしの崩れが生じて、極めて俗悪な環境に転化する危険をもつて



塩田寿江

現在の第一保育園が、新設されたのは昭和二十八年五月。私は、当園をスタートとして、保母生活

十七年を送りました。ひと口に十七年と申しますが、

楽しかったこと、苦しかった当時の

ことも、いまはなつかしく思われます。

垣根もなく、広い遊び室にオル



背に泣く子、両手に笑う子

からだを張って我が道を求めた十七年

カンが一台だけの素風景な環境に子どもたちは、みな新入園児、そのうえ保母も初めての顔合せでした。入園式の翌日のこと、子どもがにげだしたので、ある保母が、はだして追いかけてました。子どもの足があまりにも速かったため、ついに見失ってしまいました。さて帰ろうとすると、道がわからなくなってしまう。「保育園はどこですか」とたずねたという、こっぴいな話しも残っています。こどもが園からどびださないよ

うそのように聞かまされませんが、それでいて当時、だれも不満をもらしませんでした。ただどうしたら、保育成果をあげるこができるかが、大きな研究課題でした。しかし研究する時間があまりにも少ないため、夜おそくまで残ったり、視野をひろめるために講習会、研修会、視察などには積極的に参加して、保育ひとすしに努力しました。ようやくひとつの基盤ができ、年を重ねるたびに大きく育つことを感じました。そ

うにすること、泣く子が多いので、おおいひもを用意して、おおい、両手に子どもを引いているのが日課であり、保母の姿でした。こんな状態が三月もつづいたので私たちはすっかり疲労してしまいました。いちじは食も細ったことすらありました。当時私は、本俸五千三百円。一年後に役場から辞令がでるといので、五人でうかがうと、町長から、ひとりひとりいただきちらつとのぞいてみたら昇給額はなんと百円。いまではこんな話は

れにしても、保育という仕事は、歴史が浅いので、地域のかたがたの理解を深めることは困難であり一歩前進二歩後退の面もたびたびでした。しかし最近では幼児教育の重要性に目をむける傾向が強くなりつつあるように感じます。家庭保育も、施設保育も一つの地域社会の中にあり、それらはおたがいに関係しあっています。地域社会は、家庭や保育施設を通じて、子どもに影響を与えるのは、もちろんですが、直接的にも子ど

「花を好むひとに悪人はいない」とか、「花も実もある生活」とかききます。いづれにしても花にまつわる話には何か暖かい、ほのぼのとしたものを感じます。

みなんで育てよう

町では、昨年花いっぱい運動を町民に呼びかけてきました。つい最近も観光課で、ソテツのあつせんをしたところ、あつという間に品切れになってしまいました。

また、ことしの御宿中の卒業生が母校にキョウチクトウをおくったという話もあります。学校や職場はもちろん、みなさんの家庭にも花や縁をとめて育てよう心がけたいものです。

花のある生活

あるごとに花のあつせんをしていきますので、みなさんも「花のある生活」を楽しんではいかがでしょう。

町でも機会

もの保育に影響をおよぼしています。

保育者、教育者は、自ら真実を求める努力なしに、真実を求めて生きる子どもを育成することはできません。自ら今日の事態を気づかうやさしい情操と、困難を克服する勇気をもつ努力なしに子どもに、やさしい情操と勇気と実行力を期待する資格はありません。これが保育、教育にたずさわる人間のきびしさでもあり、生きがいでもあります。子どもを正しく保育し、教育する努力は、自分自身を

切つても切りはなせないのです。自分もつとこうならなければいけない」と決心して、毎日日記に書きつけて修養につとめても、なかなか自分にはかなえられませんが子どもの認識を発達させるものは生活経験と、それに密着した言語の世界のひろがりです。今日の乳幼児保育、教育を真剣に考え、からだをはって渦中に入つてのみ、自分自身を高め、よりよきあすに通ずる道を歩くことができるでしょう。(塩田寿江)

米の生産調整に 理解と協力を!!

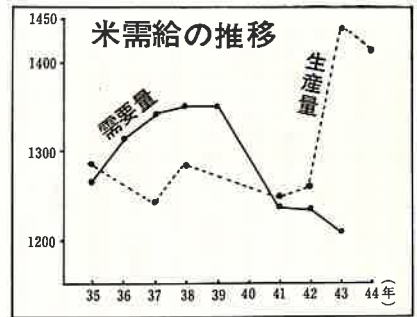
米のひとり当たりの消費は、最近著しく減少し、加工用の需用が増大しているにもかかわらず、年間消費量は千二百万トン程度になっています。一方では、米の生産

は農家の皆さんの努力と、技術の向上、基盤整備などによって、千四百万トンをこえるほどになっていす。この結果政府の古米在庫は、五百六十万トンになり、これ

は配給量の十月分分に当たり、このままでは四十五年十月末には約八百万トンに達する見込みです。この状態がつつくと、平年作でも年々約百五十万トン以上の過剰米が新たに積み重なっていくことになりす。ここでなんらかの手をうたないと戦中戦後を通じて農家経済の向上に大きな役割をはたしてきた食管制度の存続も危ぶまれることになりす。

このように当面する米の過剰問題を解決するため、緊急処置をして、政府は十アール当たり平均三万五千三百二十四円（御宿町平均三万三千六百十五円）の休耕、転作の奨励金を支払うことになりました。そこで、四十五年産米の生産調整を実施することになり、当町に対しても、百三十八トン、面積にして、約三十三ヘクタールの目標数字が示されました。これは当町の耕作面積の一割強に当たります。ところで生産調整をして休耕すれば農家にとっては痛しかゆしの状態ですが、収入減の見込みでありす。

地域の特性をいかした、飼料作物や野菜、果物、植木などの作物に転作して、主生産地形成を行ない、他産業なみの所得をあげるこ



とが最も望ましいことです。これを実現するため、政府では、農道

急傾斜危険区域を指定

岩和田・浜の一部に

岩和田字小舟谷、愛宕下、本場の一部および浜字天頃、仲町、湊の一部が急傾斜地崩壊危険区域として、県の指定を受けました。

この指定は、急傾斜地の崩壊による災害から、みなさんの生命、財産を保護することを目的としていますが、これにともなう次のような行為の制限を受けす。

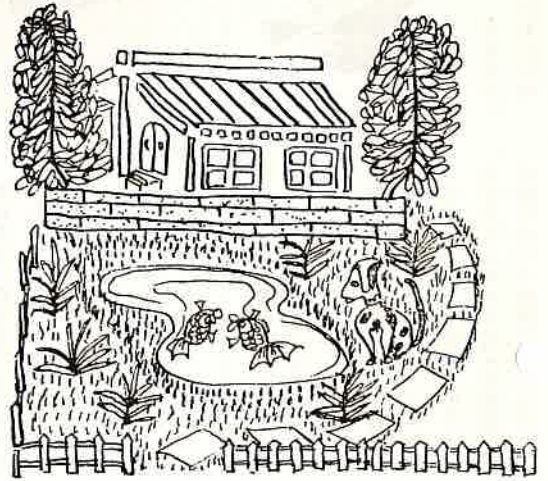
一、水の放流、工作物の設置、改造、のり切、掘さく、立木竹の伐採、土すく採取などをするとき

は県知事の許可が必要です。

一、被害を受けるおそれのある者に対して、災害防止工事の施行、家屋の移転など必要な処置をとることを勧告す。

これらの場合、住宅金融公庫から必要な融資を受けられます。また家屋などの所有者が災害防止工事を行なうことが困難か不適当な場合には県が実際に工事を行なうことになっていす。

結婚の届は式当日に 式だけでは仮の夫婦



一組の男女が縁あつて結ばれ、新しい生活に入る時に結婚式をあげてこれを記念し、多くのひとから祝福を受けることは大へん意義のあることです。しかし式をあげても結婚の届出をしなければ法律のうえでは夫婦とはいえません。ですから式の日どりが決つたら、すぐ役場（住民課窓口）にきて届出の用意をしましょう。このふたりの新しい戸籍にこの日が記入され、生まれた日とともに戸籍上消えることのない日です。

日曜、祭日でも受けつけます。
結婚の届けは、本籍、住所地の役場のほか結婚式をあげるところの役場にもだすことができます。

届け書を記入のうえ二人で署名、押印し、双方の証人が署名し印を押しておけば親戚、友人など代わりの人が役場に持ってきてかまいません。

日曜日や祭日でも、役場で届け書を受けとります。この場合は休日前に届け書を役場で見てもらつて不備のないようにしておいてください。届けをする時、お二人の戸籍抄本を求める場合もありますからあらかじめ係でおたずねください。戸籍はひとの氏名、生年月日、夫婦関係、親子関係などを証明する大切なものです。

一つの戸籍には一組の夫婦とその他も記入してあります。つ

まり結婚の届出によって夫婦の新しい戸籍が作られ、その戸籍に子どものことが追加されていくので

す。また、戸籍についてくわしいことは、ご遠慮なく住民課でおたずねください。

高級乗用車、大型モーターボート、ヨット、ゴルフクラブ、貴金属時計、普通乗用車、ビリヤード台銃類、ばちんこ機類、ルームクーラー、大型冷蔵庫、ストーブ、電気製品、かばん、喫煙具、フィルム、ゴムボート、化粧品などがおもなものです。税率は、最高が四割（高級乗用車、大型モーターボート、ゴルフクラブなど）最低は五分（マイクrohon、化粧品、二輪自動車など）またマッチには、千本につき一円の割で課税されま

税セミナー

大型消費で間接納税ふえる

間接税その（2）物品税

経済の発展に伴なって、国民の消費が大型化、高級化されてきました。そこで今回は「物品税」を取り上げてみました。物品税の課税品にもいろいろありますが、以前は、高価なもの、ぜいたく品に課税されるといふ觀念が強かつたわけですが、生活の高度化によつて、相当高価なものまで庶民の手に渡るようになりました。したがつて、間接的に税負担をする消費者が大へん多くなつてきたわけ

です。

ところで、物品税には第一種物品と第二種物品とに分けられ、そのうち第一種は小売業者、第二種は製造業者に納税の義務があります。それでは第一種物品には、どんなものがあるかといいますと、貴石、貴金属製品、べっこう、さ

んこ、こはく、ぞうげ製品とか、毛皮、繊維製品の調度品などがおもなものです。第二種物品には、

●お料理メモ●

菊菜もち

材料と作り方

春菊をゆでてきざんだもの

カップ5杯

くず粉

” ”

砂糖 1杯
水 ” 1杯半
きなこ ” 1/2杯

○春菊はゆでて、こまかくたたいて水気をしぼる。くず粉を水でとかし、砂糖を入れて、ト口火にかけてねる。おもちのようになり上つたら、先程の春菊のみじん切りを入れて混ぜ合わせ、青いくずねりを作ります。

○型（お弁当箱）に流してかためる。

○かたまつたら適当に切り、きな粉をまぶしていただきます。

○きな粉には砂糖を使いませ

ゴミ焼却場を建設

完成は七月末予定

ゴミ焼却場の起工式が四月十六日行なわれました。観光の発展、生活の多様化によって、ゴミの処理が大きな問題となりつつあります。そこで町では、総工費二千四百六十万円をかけて、久保地先きに建設することになりました。竣工は七月末日の予定で、一日十トンのゴミを焼却できる能力をもった規模になります。



一戸当りの貯蓄 郡内で一位

御宿農協(神定長治組合長)では一戸当たり貯金増加額で郡下二位で夷隅郡市農協組合長会ならびに夷隅支庁長より金一封と感謝状が贈られました。

小さな善意



海岸をきれいにと、みなさんに協力をおねがいしてきましましたが、

砂浜でガラスを割ったり、駐車場にゴミを捨てたりするひとがまだいます。須賀に住む永石りきさんは、ひまをみつければ海岸のガラスを拾ってくれました。素足で歩ける浜を守ろうとする心暖まる善意です。紙面をかりて感謝します。

人事異動

役場では、四月一日付けで、次のような人事異動と課の編成替があり、今までの産業課が、土木と農林水産とに分かれ、土木は企画に統合されました。産業課は、農林水産課に改名されました。移動した課長は次のとおり。

企画建設課 岩瀬剛氏

住民課 鶴岡栄治郎氏

税務課 池田覚道氏

農林水産課 吉野正義氏

新農協組合長に 神定長治氏



多年農協の発展に力を尽されてきた、御宿

農協組合長、神定喜一氏(勲七等単光旭日章受賞)がこのたび勇退され、その後任として、前町議で高山田区長の神定長治氏が就任しました。

おめでた



おくやみ

区	二月	男	女	計	性別	保護者
区	出生児	6	3	9		
浜	中村伸子		女	1	女	繁男
新町	田中真二		男	1	男	静夫
久保	加藤直俊		男	1	男	幸雄
岩和田	木原聡		男	1	男	功
	星野茂雄		男	1	男	吉雄
	鶴岡こずえ		女	1	女	松雄
	市東尚美		女	1	女	重雄
	水上清		男	1	男	恵一
	水上博		男	1	男	恵一
三月	須賀	10	6	16		進
	糸久美栄子		女	1	女	進
	神定直史		男	1	男	正寿
	式田清貴		男	1	男	晴夫
	君塚孝徳		男	1	男	泰三
三月	須賀	3	4	7		
	神定平司		男	1	男	3月9日
	鶴岡こと		女	1	女	8日
	石川市治郎		男	1	男	7日
	松本きさ		女	1	女	7日
	岩瀬欽四郎		男	1	男	1日
二月	区	6	4	10		
区	死亡者					年令
浜	今井辰巳		男	1	男	20日
高山田	鈴木健二		男	1	男	6日
新町	井上はな		女	1	女	1日
	神定善男		男	1	男	14日
岩和田	木原さと		女	1	女	7日
	高梨松蔵		男	1	男	9日
上布施	吉野徳泰		男	1	男	9日
	大地徳蔵		男	1	男	11日
	池田ゆき		女	1	女	15日
	井上ふみ		女	1	女	21日

御宿町の人口

(3月末現在)

計	男	女	
世帯数	二、一七七	八、四九七	三、九〇〇
人口	二、一七七	八、四九七	三、九〇〇

発行所 千葉県御宿町役場 発行責任者 岩井敏夫 編集者 加藤長